ちょっと何かおかしいぜ

先日、久し振りに霧ガ峰で遊んだ。今年はニッコウキスゲが当たり年で、まるで菜の花畑の様だった。

登山コースは、以前からあたためていた「観音沢」を上った。予想通り素晴らしいコースで、静かな山歩きを堪能出来た。

上り切った御射山ヒュッテで「長野県自然保護レンジャー」の斉藤　敏氏とお会いし、いろいろな話も出来た。

斉藤氏、お勧めの車山湿原を楽しみ車山頂上に立った。ここで昼食後、バスの待つ車山高原に下山する。

車山から車山高原に下山するコースは車山乗越からのものと、頂上から直に東に下る２コースがある。今回は後者を採用した。

頂上には二本のリフトが架かり、登山道はこのリフト沿いにある。上のリフト脇から下のリフトに下り、更に下のリフト脇を下ろうとすると、リフト係りが「ここは通行止めだから、向こうを下ってくれ」と言う。

「何で？」「危険だから」
「いつからだ」「前からです」
「前からって？」「・・・」
「ここは何処の土地だ」「・・・」
「ここは以前から登山道のハズだ」「・・・」
「ちゃんと、地図にも出ているではないか」「・・・」
「危険って、一体何処が？」「・・・」と、埒が明かない。

結局、アルバイトのリフト係りの話は全く要領を得ず、納得出来ないので、強いてそこを下ってきた。歩いた感じは足跡も無く、以前から通行止めの印象だった。

通行止めの明確な説明をした看板等はない。納得出来る説明を受けた訳ではない。尾瀬などは別にしも、何年も前から登山道として確立されている所が、突然使用できなくなる訳が無い。

しかし、何とも後味が悪い。後日、前出の斉藤氏に問い合わせした所、「全くそのような（通行止めと言う様な）事実はありません」の回答を得た。

近年、山スキーの世界でも、スキー場とのトラブルが絶えない。（資料参考）。今回の場合考えられるのは、登山道を歩かれると「リフトの営業に影響し儲からない」である。

スキー場の営業方針で勝手に登山道を封鎖された可能性が考えられる。もし、そんなことをされたら私たちは黙っていられない。ちなみに出版物はどんなものか調べてみた。

1．山と渓谷社　２００１・１０発刊の「東京周辺の山」は登山道として明記されている。
2．実業之日本社　２０００．１１発刊の「ブルーガイド」は登山道として明記されている。
3．昭文社　２００３版「山と高原地図」は登山道として明記されていない。
4．朝日新聞社　２００２・４発刊の「日本百名山・ビジュアル登山ガイド」は登山道として明記されている。しかも、これはコース案内そのものが、問題のコース設定になっている。朝日新聞書籍編集部に問い合わせたところ、「想像で書くようなことはないから、登山道として間違いないでしょう」との話だった。

全ての出版物見た訳ではないが、初心者が信頼する大手の資料でコースとして案内（認知）されているにも関わらず、現地に赴いたら通行止めでは話にならない。

この問題は、事実を極め根本を解決する必要があると考える。（写真は問題のコース）